

令和5年度経済産業政策関係調査事業（M V V（ミッション・ビジョン・バリュー）調査）
調査報告書

株式会社 AKIND

本事業の目的（仕様書より抜粋）

経済産業省が向き合う政策課題は多様化している。他方、職員からは、十分に検討を行うための時間的・心理的余白が不足している等の声が上がっており、働きやすさの改善・働きがいの認識の両面での工夫が引き続き求められているところ。本事業では、下記を通して上記課題の解消を目指す。

経済産業省のミッション等を明確にすることで、各職員に仕事の意味・意義を再認識してもらう。各職員が認識するためには、省内での意識共有の場、情報発信を含む戦略が重要。省内コミュニケーションを戦略的に仕掛けることで、多くの職員が賛同し、自発的に業務にあたる機運を、本取組を通じて浸透させる。

令和5年度経済産業政策関係調査事業（MVV（ミッション・ビジョン・バリュー）調査）に基づく、省内のMVVに関する史実及び、ヒアリング、ミーティング等から得た結果を踏まえて洞察し、MVVのコピーライティングを実施する。加えて次年度に向けたロードマップを省内職員と協議を進めた結果を記載する。

事業内容

1)MVV コピーライティングの実施

本事業の目的に沿い、経産省が主催するワークショップへの部分的な参加及び、各所の結果共有により、MVVのコピーについての考察を行った。

<ワークショップ日程>

11/10 官房、11/16 保安 G、11/17 調統 G、11/17 特許庁、11/17 エネ庁資源部、
11/21 製造、11/21 商情、11/21 エネ庁長官官房、11/21 エネ庁省新部、11/22 産政、
11/22 福島 G、11/22 貿易、11/22 産技、11/24 通政、11/24 商サ G、11/24 電取委、
11/28 中企庁/地域 G、11/30 エネ庁電ガ部地域 G、11/20 四国、11/22 関東、
11/29 東北、11/27 近畿、11/30 九州、12/07 中国、12/13 沖縄 * 部局略称にて記載

上記に加えて、素案提出の際には、担当職員との協議のみならず、官房内でのヒアリングを個別に行い、精査を行った。各者との協議から、経産省の持つ DNA をはじめ、各職員の思い、今後進行が見込まれる組織経営改革とのバランスを含み、最終案へと落とし込を行った。

<MVV 案>

■ ミッション・ステートメント案

未来に誇れる日本をつくる。

その提案は、世界に誇れるか。その取組は、国民に誇れるか。
その行動は、自分に誇れるか。
私たちは、この国の変革を導いていくという誇り高き思いがある。
戦後の経済を牽引し、
現在の経済基盤を作り上げることができたのもその誇りがあったからこそ。
組織の枠を超え、国境を超え、時代を超えて、
国富の増大とエネルギーの安定供給に邁進してきた私たち。
求められていたのは、世界の動静を見極め、本質はなにかと問い続けること。
そして、理想の経済社会を思い描き、国民の豊かさを真摯に追求すること。
これは、この先も決して変わることはない。
必要なのは互いに手を取り合うだけでなく、違いを認め、力に変えていくこと。
これまでなかった大きな相乗効果を生み出すことで、
新しい価値や新しい産業を創造し、次代の日本を誕生させることができるはず。
世界を巻き込む大きなうねりを作ることだってできるに違いない。
前例にとらわれず、常識に縛られず、固定観念を捨て、最後までやり遂げる。
私たちの一つの提案、一つの取組、一つの行動が、この国の未来をつくること信じて。

■ ビジョン案

つながりを力に、進化し続ける

私たちは、組織の枠を超え、志を同じくする仲間と手を組む。
これまでなかった可能性を生むのは、これまでなかった掛け算から。
その源泉となるのは、個の力。そのためにも個の力を磨き、高めることが鍵となる。
私たちは個が育つ環境を整え、効率化を徹底し、希望する働き方を実現する。
政策実現に関わる一人ひとりの成長なしに、この国の課題解決はできないのだから。
私たちは変わることが恐れず、進化を続ける。未来に誇れる日本をつくるために。

■ バリュース案

本質的な課題に挑戦する

前例や常識にとらわれず、この国が抱える本質的な課題に挑む。
大切なのは、一人ひとりが国を背負い、過去に学び、理想の未来を思い描くこと。
それぞれの現場から、真の課題解決に向けて職務を遂行しなくてはならない。
その先こそ、国民の豊かさがあるのだから、逆風の中も、歯を食いしばって立ち向う。
私たちは結果が出るまで、挑戦を続けることでミッションを実現する。

自由に個の力を発揮する

正解が目まぐるしく変わる時代。
求められているのは、一人ひとりが自ら考え、行動すること。
だからこそ、個を磨き、高め、力を蓄えることが大切だ。
そのためには、仕事と生活の両立も必要になる。豊かな生活で、個はさらに磨かれるのだから。
私たちは個を開放し、その力を最大化することでミッションを実現する。

多様な力をかけ合わせる

立場・役割・組織を超えたネットワークを構築し、新たな可能性を生み出す。
視点も違えば、手法も違うからこそ、その相乗効果は大きくなる。
世界を巻き込む大きなうねりだって起こせるに違いない。
必要なのは、一人ひとりに敬意を払い、互いに刺激を与え、支え合うこと。
私たちは一体となり、違いを力に変えていくことでミッションを実現する。

浸透策については、上記の広報誌、映像制作のみならず、組織経営改革に沿った課題の整理とともに、浸透策につながるデザインの更新ほか（以下、浸透策概要を参照）を行った。

<浸透策概要>

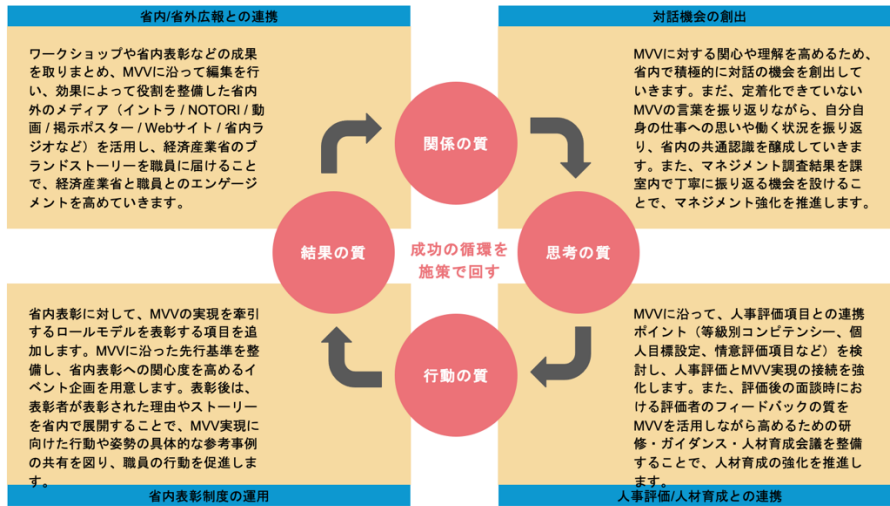
組織経営改革に沿った課題		経済産業省の「Mission / Vision / Values」の23年度浸透策
01 組織のあり方の再定義	省内の巻き込みの推進	全省説明会の実施（年末のMVV発表 / 年度末の報告会）
		幹部室へのMVVポスター掲載の展開
		Missionインタビュー動画の制作と省内発信
	対外ブランディングの準備	名刺裏へのMVVデザインの展開
		経済産業省オフィシャルサイトへのMVVページ作成（Vision動画の掲載）
		MVVをテーマとしたNOTRI特別号の制作・発行
省外の巻き込みの推進	若手職員参加型によるVisionイメージ動画の制作・配信	
	アラムナイ会でのMVVに対する意見収集	
02 政策創造の余力確保	業務の標準化・最適化により、生産性向上と無駄削減を断行	MVVを起点としたデザインガイドラインの整備（書体/カラーパレット/モチーフなど）
		MVVデザインに沿ったPower Pointテンプレートの整備
	「理想の幹部・マネージャー」の行動指針の明確化と定着	MVVに沿った組織マネジメント調査項目への反映
03 業務効率化の追求	MVVに促した行動や取組を評価・表彰し、ポジティブなフィードバックを文化に	MVVに沿った社内表彰イベントの開催

3)ロードマップの実施

ロードマップについては、省内におけるインナーコミュニケーションについて検討を行った。MVVに関する表彰の実施のみならず、既述のワークショップの活性化、24年度後半に竣工が期待される共創空間の利活用といった包括的な協議を開始する。また、組織文化の醸成にあわせて、省内の運営体制の見直しも提言された。対外的なコミュニケーションについては、省内広報誌の利活用に始まり、省内の声を収集する仕組みと合わせて、映像、WEBサイト等での発信を検討する。

<ロードマップ案>

「成功の循環モデル」という組織文化醸成のフレームワークに沿って、各施策の役割を整理しています。



<3カ年ロードマップの目的>
 組織の指針であるMVVをもとに、その浸透を通じて組織文化の醸成を進める。
 個が育つ環境が整えられ、業務効率化が徹底され、希望する働き方が実現できる仕組みづくりを行う。
 さらには組織の枠を超え、志を同じくする仲間が集い、つながりを力に、進化し続ける経済産業省を具現化する。

年度テーマ	2024年度			2025年度			2026年度					
	本質的な課題に挑戦する						自由に個の力を発揮する			多様な力をかけ合わせる		
省内広報との連携	省内広報メディアの整備			全省集会の継続的な実施			全省集会の継続的な実施					
対話機会の創出	省内広報の編集会議 → 各メディアを通じた広報活動			編集会議 → 各部署・課室への広報活動の展開・落とし込み			5-6月：各課室でのWS実施			7-8月：改革指導月間での全国WS展開		
人事評価/人材育成との連携	MMVと面談フィードバックの連携			説明会 研修			面談フィードバックの活性化支援			評価者対象の人材育成会議		
省内表彰制度の運用	4-5月：試行実施			表彰内容の発信			省内表彰の実施			表彰内容の発信		
省外広報との連携	開示資料の整備			WEBサイトの更新			定期的ネットワークイベント@共創ラウンジ			METI JOURNALのメディア強化(動画/SNS)		
組織文化醸成マネジメント	民間企業/海外行政の成功事例調査			実施結果の振り返りと次年度計画の策定			アンバサダーを含めた省内協働体制の構築					

4) 伴走支援

毎週月曜日の午前中に定例会を実施し、担当職員との各作業の進捗及び、確認事項の取りまとめを行った。また、省内で実施されていたワークショップにおける進行等に関するアドバイスをはじめ、省内での発表資料の作成など補助的なサポートを断続的に行った。デザイン的なアドバイスも並行して行い、スライドのフォーマットほか、今後の省内資産となるアイテムの開発についても伴走支援を行った。

以上